

第六條 預金期間ハ一年毎ニ更新ス

更新期ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ更ニ一年間順次繼續スルモノト看做ス

第七條 預金ニ對シテハ年六分ノ利息ヲ附ス但シ預金管理ノ狀況ニ依リ増減スルコトアルヘシ

前項ノ利息ハ預入ノ翌月ヨリ預金期間終了ノ當月迄之ヲ附ス但シ第十條ノ場合ニ在リテハ拂戻ノ前月迄附スルモノトス

第一項但書ノ場合ニ於テハ大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第八條 預金ノ利息ハ毎年三月三十一日ヲ區切り之ヲ元本ニ組入ル

利息計算ノ場合ニ於テハ錢位未滿ハ之ヲ四捨五入ス

第九條 預金者ニハ附屬第一號様式ニ依ル預金通帳ヲ交付ス

第十條 預金ハ左ノ場合ヲ除クノ外預金期間内之ヲ拂戻スコトヲ得ス

- 一、死亡シタルトキ
- 二、退官又ハ退職シタルトキ
- 三、他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
- 四、休職トナリタルトキ
- 五、非常災害ニ因リ著シク生計上窮迫ヲ受ケタルトキ

第十一條 預金ノ拂戻ヲ受ケムトスル者ハ預金通帳ト共ニ預金拂戻請求書ヲ提出スヘシ

第十二條 預金ハ各支部ニ於テ特約銀行ニ預金スルモノトス但シ大臣ノ承認ヲ受ケ確實ナル有價證券ニ放資スルコトヲ得

前項ノ特約銀行ハ大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條 貯金部ノ會計ハ組合ノ會計ニ對シ別途整理ヲ爲スモノトス

第十四條 官房保健課長及鐵道局長ハ每事業年度ノ終ニ於テ支部ノ決算ヲ爲シ附屬第四號様式及第五號様式ニ依リ貸借對照表及損益計算表ヲ作成シ四月末日迄ニ之ヲ大臣ニ報告スヘシ

第十四條ノ二 支部ハ決算上剩餘ヲ生シタルトキハ該剩餘額ノ百分ノ五以上ノ積立金ヲ控除シ殘額ハ之ヲ其ノ支部ノ繰越金トシテ整理スヘシ

第十五條 官房保健課長及鐵道局長ハ各支部ニ於ケル預金者毎ニ附屬第二號様式ニ依ル預金原票ヲ作成シ之ヲ整理スヘシ

第十六條 預金者他ノ支部所屬ニ轉勤シタルトキハ當該預金者ニ對スル計算ヲ爲シ現金ハ之ヲ預金原票ト共ニ轉勤先支部ノ管理者ニ送付スヘシ

第十七條 官房保健課長及鐵道局長ハ毎月十日迄ニ前月分ノ預金受拂計算表ヲ附屬第

三號様式ニ依リ作成シ之ヲ大臣ニ報告スヘシ
 第十八條 官房保健課長及鐵道局長ハ日記簿其ノ他ノ帳簿ヲ備ヘ支部ニ於ケル現金ノ
 出納及預金ノ管理状態ヲ明確ナラシムヘシ
 第十九條 鐵道局ニ各課長ヲ以テ組織スル預金管理委員會ヲ置クコトヲ得
 前項委員會ニ關スル細則ハ鐵道局長之ヲ定メ大臣ニ報告スヘシ
 第二十條 各支部ニ於ケル事務取扱細則ハ官房保健課長及鐵道局長之ヲ定メ大臣ノ承
 認ヲ受クヘシ

附 則

本達ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

表 面

年 月 日	共												高	支 部 理 者 印												
	年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日			年	月	日	年	月	日						
預入金額																										
拂戻金額																										
殘																										

附屬第一號様式 六寸

八 寸

附屬第二號様式

預 金 原 票 表 面
四寸五分

四寸																							
勤務所											年 月 日												
											貯開年月日 金始日												
身分職名											氏 名												
											名												
預 金																							
年月日	元 金				利 子				拂 戻 高				残 高										
	千	百	十	圓	十	錢	百	十	圓	十	錢	千	百	十	圓	十	錢	千	百	十	圓	十	錢
脱退年月日 及 理 由												全部拂戻年月日 及 其 金 額											

五寸五分

- 備 考
1. 用紙ハ鳥ノ子ヲ用ヒ藍色刷トス
 2. 拂戻ハ朱書スヘシ
 3. 本票ハ記入シ盡シタルトキハ其残高ヲ第二原票ニ轉記シ綴合セ置クヘシ
 4. 利子ハ毎年四月ニ記入シ全部拂戻ノ場合ハ其際記入スヘシ
 5. 本票ハ全部拂戻シタルトキハ當該預金通帳ト合綴シ保存スヘシ

預金心得																								
この通帳は大切に保管すべし																								
この通帳は他人に譲渡することを禁ず																								
退職したる時は速にこの通帳を以て拂戻の請求を爲すべし																								
この通帳は利子記入の爲め毎年一回五月に提出すべし																								
この通帳は預金全部拂戻したる時は返納することを要す																								
金額 拂戻金額 残高																								
支那銀行																								

面裏

年月日	元			金			利			子			拂			戻		
	千	百	十	圓	十	錢	百	十	圓	十	錢	千	百	十	圓	十	錢	

附屬第三號樣式
大臣
年月分預金受拂計算表
官房保健課長鐵道局長

摘要	受			入			拂			戻			備考
	本月	分	本年度累計	本月	分	本年度累計	本月	分	本年度累計	本月	分	本年度累計	

附屬第五號様式

貯金部損益計算表

大正 年度分 支部名

種 別	借 方	貸 方	備 考
利 益	円	円	
收入利息			
雜 益			
計			
損 失			
諸 費			
支拂利息			
諸拂戻金			
雜 損			
計			
差引当期利益金(又ハ缺損金)			
合 計			

当期利益金
前期繰越金
合 計

上記ノ利益金ヲ處分スルコト次ノ如シ

積 立 金
後期繰越金
合 計

(用紙フールスカップ半切)

附屬第四號様式

貯金部貸借対照表

大正 年度末現在 支部名

借 方	種 目	貸 方
円		円
	前期繰越金	
	資 金	
	積 立 金	
	未 拂 金	
	貯 金	
	未 収 入 金	
	中 央 部 勘 定 金	
	他 支 部 勘 定 金	
	有 價 證 券	
	銀行定期預金	
	銀行當座預金	
	郵便振替貯金	
	現 金	
	当期利益金	
	合 計	

備考 未拂金、未収入金ニ付テハ其内譯ヲ別紙ニ記載添付スヘシ

(用紙ハフールスカップ半切)

○貯金部整理科目竝解疏

(大正十年六月鐵道局庶務課長會議決定)

- 一、前期繰越金
前期決算ニ於ケル剩餘金(利益金)又ハ缺損金ヲ謂フ
- 二、資金
組合ヨリ融通ヲ受ケタル資金額ヲ謂フ
- 三、未拂金
毎決算期ニ於テ諸費又ハ支拂利息等ノ未拂ニ屬スルモノヲ謂フ
- 四、雜收入
不用物品賣却代金、他ヨリノ寄附金其他ノ雜收入ヲ謂フ
- 五、收入利息
銀行預金、有價證券、郵便振替貯金等ヨリ生スル收入利息ヲ謂フ
- 六、雜益
有價證券賣却ノ場合ニ於ケル價格差益、同償還益、預金拂戻ノ失權ニ依ル歸屬ノ金額ヲ謂フ

- 七、貯金
貯金ノ預入竝拂戻ヲ整理シ其ノ現在高ヲ表示ス
- 八、回金
他所へ送金ノ手續中ニ在ルモノヲ謂フ
- 九、未收入金
毎決算期ニ於テ雜收入又ハ收入利息ノ未收ニ屬スルモノヲ謂フ
- 十、什器々具
貯金部資金ヲ以テ購入シタル什器々具ノ現在價格ヲ謂フ
- 十一、諸費
振替貯金拂込料金、爲替料通信費其他ノ諸雜費ヲ謂フ
- 十二、仕拂利息
資金及預金ニ對スル支拂利息ヲ謂フ
- 十三、諸拂戻金
雜收入、收入利息等ニシテ過誤受入ヲ爲シタルトキノ拂戻金ヲ謂フ
- 十四、雜損
有價證券賣却ノ場合ニ於ケル價格差損、天災其他ニ依ル金錢ノ損失、什器々具賣

却破損滅失等ノ損失額ヲ謂フ

十五、中央部勘定

十六、他支部勘定

以上二科目ハ中央部又ハ他支部トノ間ニ生スル貸借關係ヲ整理スル科目トス

十七、有價證券 (各種類ニ依リ口座ヲ設クルコト)

十八、銀行定期預金

十九、銀行當座預金

二十、郵便振替貯金

二十一、現金

○指定銀行ト預金利率以外ノ特種契約ヲ爲ス場合ニ關スル件

(大正十年十二月二十六日
鐵官保二四一號通牒)

共濟組合貯金部預金運用上特約銀行ト協定スル場合ニ於テ預金利率以外ニ特種ノ契約ヲ爲サントスル場合ハ總テ大臣ノ承認ヲ受クル様相成度

○決算ニ計上スル有價證券ノ價格ニ關スル件

(大正十一年三月四日
鐵官保二九三六號通牒)

共濟組合貯金部各支部ノ決算期ニ於テ其ノ所有ニ係ル有價證券ノ價格ハ買入價格ヲ以テ計上相成度

○有價證券賣買償還ニ關スル報告方ノ件

(大正十二年一月十三日
鐵官保二二號通牒)

共濟組合貯金部ノ預金ヲ以テ有價證券購入ノ承認ヲ受ケ現實ニ該證券ヲ購入シタルトキ又ハ所有ノ有價證券ヲ賣却シ又ハ元金ノ償還ヲ受ケタルトキハ其都度年月日、銘柄、額面、價格、差損益、利率、利廻、割戻金等ヲ報告相成度

追テ是迄承認ヲ受ケ購入シタルモノニ付テハ此際本文ニ依リ取纏メ報告相成度尙ホ承認ヲ受ケタルモ購入ヲ中止シタルトキハ其旨報告相成度

○貯金受拂及管理狀況報告方ノ件

(大正十二年三月二十一日
鐵官保四〇〇號通牒)

共濟組合貯金部各支部ノ預金管理狀況調査上必要有之候條自今毎月十日迄ニ其ノ前月分ヲ別紙様式ニ依リ提出相成度

追テ共濟組合貯金部規程第十七條ニ依ル預金受拂表ハ之ヲ省略シ差支無之申添候

大正 年 月分貯金受拂表

(預金管理月報ノ一)

支 部 名

預 金 高 額	人 員	押 出 高 額	人 員	残 高 額	累 計		備 考
					人 員	金 額	

- 備考
1. 他支部ヨリ轉入シ又ハ他支部へ轉出シタルモノノ利子ハ預金高又ハ拂出高ニ加算セサルコト
 2. 前月ニ比シ著シク預金ノ増減アルトキハ其原因ヲ備考ニ略記スルコト
 3. 新規ノ預金者ノ人数及金額ヲ備考ニ記スルコト
 4. 死亡、退職、休職他官廳へ轉勤シタルモノニ對スルハ拂出ハ備考ニ其人員、金額ヲ携記スルコト

大正 年 月 月末預金管理表

(預金管理月報ノ二)

支 部 名

種 別	銀行 當 座 預 金	銀行 定期 預 金	郵便 振 替 金	有價 證 券	現 金	備 考
何々銀行						
何々銀行						
何々銀行						
何々貯金局						
支 部						
計						

- 備考
1. 銀行特別小口通知等ノ預金ハ當座預金ニ記スヘシ
 2. 有價證券欄ニハ額面ヲ記載スヘシ
 3. 其月ニ賣買シタル有價證券ハ銘柄、金額、差損益割戻金等ヲ備考ニ明記スヘシ
- 償還ヲ受ケタルモノアルトキ又同シ

○有價證券購入原價ニ關スル件

(大正十二年十一月二十九日)
鐵官保非四〇〇號通牒

共濟組合貯金部預金ヲ以テ有價證券ヲ購入シタル場合ニ於テ手数料ノ割戻金ヲ受ケタルトキハ之ヲ購入價格ヨリ差引購入原價ヲ定ムル様取扱相成度
追テ本件ハ大正十二年度分ヨリ實施相成度申添候

○所屬異動者ノ預金利子計算方ノ件

(大正十三年三月八日)
鐵官保三五二號通牒

共濟組合貯金部預金者他ノ支部所屬ニ轉勤シタル場合ノ利息計算方各局保健掛長會議ニ於テ打合ノ次第モ有之候條大正十二年度分ヨリ之ニ依リ處理相成度

記

一、預金期間中ハ轉勤先支部へ送金ノ當月分迄年六分ヲ附スルコト

二、前號ノ預金者ニ對シ更新期ニ支拂フヘキ利息ハ當該支部ニ於テ一般預金者ニ支拂フ利率ト同一利率ヲ其年度中預入シタル全額ニ對シ附スルコト

○決算期ニ於ケル未收入金ノ計算ニ關スル件

(大正十二年三月二十五日)
鐵官保四二九號通牒

共濟組合貯金部各支部ニ於ケル事業年度ノ終ニ於テ決算ニ際シ未收入金ノ計算ハ決算ノ日ニ確實ニ收入スヘキモノノミヲ計算シ證券利札ニシテ未タ支拂期ノ到達セサルモノ又ハ定期預金ニシテ未タ期日ニ到ラサルモノノ利子ヲ日割計算シ之ヲ未收入金ニ計上セサル様致度

共済組合貸付部

上ノキハ別紙ニ
又ハ本組合會ニシテ未入附係ニ屬セシメテ且シテ附系ヲ日給借取ノ支マ未入金ニ指
シ日ニ給取ニ付天賦ノ支シテ且シテ附系ノ附系附具ニ支シ未入金ヲ附取ノ附取支マ
共済組合貸付部支取ノ付シテ未入附係ノ支シテ且シテ附系ノ附取未入金ノ附取ハ共済
○本組合會ニシテ未入附係ノ支シテ且シテ附系ノ附取未入金ノ附取ハ共済
(編者附四二ノ附取未入金)
(大正十二年三月二十五日)

○國有鐵道共済組合貸付部規程

改正

大正八年八月二十日達第七一號
大正九年四月三日達第三三號
大正九年七月三日達第三三號
大正十一年三月三日達第一一八號
大正十二年三月三日達第一一八號
〇六二〇八四號
號號號號號

第一條 國有鐵道共済組合規則第六十二條ニ基キ組合員カ不慮ノ災厄ニ因リ生計上ノ

窮迫ヲ受ケタル場合ニ於テ低利貸付ヲ爲スノ目的ヲ以テ貸付部ヲ設ク

第二條 低利貸付ハ組合員組合加入後一箇年ヲ經過シ本人若ハ其ノ家族ノ疾病、死亡
其ノ他不慮ノ災厄ニ因リ生計上窮迫シタル場合ニ於テ之ヲ爲ス

第三條 貸付金ハ別表ノ標準ニ據ル

前項ノ標準ニ達スルマテハ同一人ニ對シ數回ニ分チ貸付スルコトヲ得

第四條 利息ハ元金一圓ニ付月五厘ノ割トシ月ヲ以テ計算ス

利息計算上厘位ヲ生シタルトキハ錢ニ切上ク

第五條 貸付金ハ貸付ノ翌月ヨリ一箇年以内ニ月賦辨濟ヲ爲サシムヘキモノトス特別
ノ事情アルトキハ前項ノ期限ヲ六箇月以内延長スルコトヲ得

第六條 辨濟スヘキ月賦額並當該月分ノ利息ハ毎月ノ給料ヨリ控除受領ス

給料ノ支給ヲ受ケサルトキ又ハ給料ノ支給ヲ受クルモ前項ノ額ニ達セサルトキハ當該月ノ辨濟元利金ニ付テハ翌月以後ニ順延スルコトヲ得

第七條 未辨濟ノ貸付金ハ組合ヨリ受クヘキ給付金ヨリ控除受領ス

第八條 官房保健課長ハ本省所屬ノ組合員、鐵道局長、建設事務所長改良事務所長及電氣事務所長ハ其ノ所屬ノ組合員ニ關スル貸付事務ヲ執行ス

第九條 貸付ヲ受ケントスル者ハ長又ハ主任ニ左ノ要件ヲ申込ムヘシ

一 第二條ノ事由

二 辨濟方法

三 貸付金額

第十條 長又ハ主任前條ノ申込ヲ受クルトキハ其ノ實狀ヲ調査シ之ニ意見ヲ附シテ官房保健課長又ハ鐵道局長、建設事務所長、改良事務所長、電氣事務所長ニ通報スヘシ

第十一條 貸付金ニ對シテハ借用證ヲ徵シ債務完済ノトキ之ヲ返還ス

第十二條 貸付部ノ會計ハ組合ノ會計ニ對シ別途整理ヲ爲スモノトス

第十三條 貸付部ハ組合ノ剩餘金ヲ以テ之ヲ經營ス

第十四條 貸付部ハ資金ニ充ツル爲組合ノ責任準備金ヲ借入ルルコトヲ得

第十五條 前條ノ借入金ニ對シテハ年六分ノ利息ヲ付スルモノトス

第十六條 官房保健課長及鐵道局長、建設事務所長、改良事務所長、電氣事務所長ハ

每年事業年度ノ終リニ於テ決算ヲ爲シ大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第十七條 官房保健課長及鐵道局長、建設事務所長、改良事務所長、電氣事務所長ハ

其ノ所屬組合員ニツキ別紙様式ノ組合員貸付原票ヲ作成整理スヘシ

組合員其ノ所屬ヲ轉シタルトキハ前條ノ組合員貸付原票竝借用證ヲ轉送シ其ノ貸付關係ヲ處理スヘシ

第十八條 官房保健課長及鐵道局長、建設事務所長、改良事務所長、電氣事務所長ハ

左ノ帳簿ヲ備ヘ一切ノ事項ヲ明カニスヘシ

仕譯日記帳（様式第一號）原簿（様式第二號）

前項ノ外必要アルトキハ適宜ノ補助簿ヲ用ユルコトヲ得

附 則

第十九條 本達ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

貸付金ノ標準

加 入	年 數	以九年度正	八年度正	七年度正	六年度正	五年度正	四年度正	三年度正	二年度正	元年度正	明四十四年	明四十四年	明四十四年	明四十四年	明四十四年
	二 年 以 下	一六	一六	八											
加 入	時 期														

○貸付原票寸法一定ノ件

(大正八年九月三日)
鐵官保第一二二號通牒

共濟組合貸付原票ハ各局へ轉送等ノ關係モ有之大體其ノ寸法ヲ組合員原票ノ通定致度

○貸付事務取扱方ノ件

(大正八年九月六日)
鐵官保第一一四八號通牒

今般共濟組合貸付部規程制定相成リ候ニ就テハ右貸付資金ハ組合員ノ將來ノ救濟金ノ支拂基金タル責任準備金ニ外ナラサルト且ツ一時ノ窮迫ヲ免カルル爲メ負擔ヲ將來ニ殘スカ如キコトハ從事員ノ私經濟上最モ戒慎スベキ義ト被認候條事業執行ニ當リ細心ノ注意ヲ拂ヒ本制度制定ノ趣旨ニ反セサル様致度貸付事務ハ努メテ敏活且ツ確實ヲ旨トシ當分左記ニ依リ處理相成度

- 一、貸付事由ハ所定ノモノ以外所謂其他ノ不慮ノ災厄ハ可成水、火、震災等自然ノ災厄ニ限リ貸出ノ場合ヲ尠ナカラシムルコト
- 二、貸出ハ主トシテ世帯持ノ生計窮迫ニ對スル救濟ニ重キヲ置キ獨身者ハ扶養スヘキ者アル場合ノ外可成制限スルコト
- 三、規約貯金ヲ有スル者ハ可成先ツ該貯金ノ拂戻ニ依リ窮迫ニ對スル處置ヲ爲サシムルコト

- 四、月賦辨濟額ハ必スシモ均一月賦タルコトヲ要セサル義ナレハ賞與金其他不時ノ收入等アル場合ニハ努メテ辨濟ヲ速カナラシムルコト
- 五、借用證書ノ様式別紙ノ通り
- 六、主簿及補助簿ノ整理ハ確實ヲ期スルコト
- 七、借入者ノ印鑑ハ別ニ證明ヲ要セス本人カ省ニ對シ平素使用ノモノタルヲ確ムルヲ以テ足ルコト
- 八、長、主任ニ於テ貸付ヲ受ケムトスル申込ヲ受ケタル場合ニハ努メテ懇切丁寧ニ其ノ實狀ヲ調査スルコト
- 九、貸付事務ハ總テ親展扱トスルコト

消印

印紙

借用證

(用紙半紙)

所屬職名

氏名

一金何拾圓也

右金額大正八年八月達第七七一號鐵道省共濟組合貸付部規程承知ノ上借用致候

ニ付テハ左ノ件々異議無之候
 一、利息ハ月計算トシ元金一圓ニ付月四厘ノコト
 二、元利金ハ 個月ノ月賦トシ鐵道省ヨリ受クヘキ給料ヨリ控除セラレタキ
 コト
 三、借入金延滞ノ場合ニハ組合ヨリ受クヘキ給付金ヨリ控除セラレタキコト

年 月 日

右 何 某 印

大臣 宛

○貸付事務敏速取扱方ノ件

(大正九年八月二十七日 鐵官保第五八六號通牒)

共濟組合貸付部規程第二條ニ依ル貸付ノ義ハ成ルヘク貸付申込者ノ便宜ヲ圖リ且ツ取扱上迅速ナル處理ヲ爲シ貸付ノ許容金額ニ關スル如キハ長、主任ヨリ電報又ハ電話ニテ所要ヲ便シ又事務所ニ於テハ購買支部ノ資金中ヨリ一時立替支拂ヲナシ置キ貸付部資金ヲ以テ遲滞ナク之ヲ購買支部ニ返濟整理スル等取扱上迅速ノ處理ニ依リ貸付部事業ノ所期ノ目的ヲ達スル様御配慮相成度

○貸付部利子計算方ノ件

(大正八年九月八日鐵官保第一一五三號 保健課長 經理局長 通牒)

共濟組合員ノ貸付金ニ對シテハ月賦辨濟額ト共ニ前月分ノ利子ヲ徴收シ月賦完済ノ月ニ於テ前月分及當月分ノ利子ヲ徴收相成度

○貸付部利子計算例

(大正八年十一月十三日通牒)

共濟組合貸付部利子計算例參考ノ爲通報ス

貸付金	前月分	當月分	前月分ノ利子	當月分ノ利子	前月分ノ利子	當月分ノ利子
1000	1000	1000	40	40	40	40
2000	2000	2000	80	80	80	80
3000	3000	3000	120	120	120	120
4000	4000	4000	160	160	160	160
5000	5000	5000	200	200	200	200
6000	6000	6000	240	240	240	240
7000	7000	7000	280	280	280	280
8000	8000	8000	320	320	320	320
9000	9000	9000	360	360	360	360
10000	10000	10000	400	400	400	400

均一月賦辨済元利金

月	元金	月賦元金	利息	合計	摘	要
1	120'00	—	—	—	利息四十八錢ノ前月末日ノ残高ニ對スル一箇月分ノ利子トス以下之ヲ前月中ノ利子トス	前月分及當月分利子ヲ控除スルコト
2	110'00	10'00	48	10'48		
3	100'00	10'00	44	10'44		
4	90'00	10'00	40	10'40		
5	80'00	10'00	36	10'36		
6	70'00	10'00	32	10'32		
7	60'00	10'00	28	10'28		
8	50'00	10'00	24	10'24		
9	40'00	10'00	20	10'20		
10	30'00	10'00	16	10'16		
11	20'00	10'00	12	10'12		
12	10'00	10'00	08	10'08		
1	—	—	08	10'08		

備考

元金120圓10圓ノ均一月賦ノ場合ヲ示ス

非均一月賦辨済元利金

月	元金	月賦元金	利息	合計	摘	要
1	120'00	—	—	—	利子ノ計算方法ハ甲表摘要ニ同シ	前月分及當月分利子ヲ控除スルコト
2	110'00	10'00	48	10'48		
3	100'00	10'00	44	10'44		
4	90'00	10'00	40	10'40		
5	80'00	10'00	36	10'36		
6	40'00	40'00	32	40'32		
7	30'00	10'00	16	10'16		
8	20'00	10'00	12	10'12		
9	20'00	—	—	—		
10	20'00	—	—	—		
11	10'00	10'00	24	10'24		
12	—	10'00	08	10'08		

備考

元金120圓10圓月賦ノ處六月40圓ヲ返済シ九月以降二箇月間止ムヲ得サル事情ノ爲メ月賦順延シタル場合ヲ示ス

大正十一年三月二日	姓名	職名	年齢	出身	職別	
					職名	人数
					主任	
					職員	
					技師	
					技士	
					工員	
					其他	

大正十一年三月二日 鐵道省 鐵道局長 官保第一三〇號通牒ノ共濟組合貸付部事業狀況調ハ大正十一年四月分ヨリ別紙ノ通り改正、其月分ヲ翌月十日迄ニ提出相成度

○貸付部事業狀況調提出ノ件
 (大正十一年三月二日 鐵道省 鐵道局長 官保第一三〇號通牒)

大正八年十月六日附鐵官保第一三四〇號通牒ノ共濟組合貸付部事業狀況調ハ大正十一年四月分ヨリ別紙ノ通り改正、其月分ヲ翌月十日迄ニ提出相成度

大正 年 月分貸付部事業状況調

大正 年 月 日
第 號

勤務所別	前月ヨリ越高		本月中貸付		他所屬ヨリ入		返済完了 人員 中	本月中回收			他所屬へ移出		翌月へ越高		記事
	人員	金額 円	人員	金額 円	人員	金額 円		人員	元金 円	利息 円	人員	金額 円	人員	金額 円	
驛員	雇員以上														
	傭人														
機關 庫員	雇員以上														
	傭人														
保線 區員	雇員以上														
	傭人														
工場員	雇員以上														
	傭人														
船員	雇員以上														
	傭人														
其他	雇員以上														
	傭人														
計	雇員以上														
	傭人														

備考

1. 「本月中貸付人員、金額」欄ニハ他管ヨリ移入シタル人員金額ヲ加算ス
2. 「本月中回收人員、元金及利息」欄ニハ本月中返済完了人員、金額及他管へ移出シタル人員及金額ヲモ加算ス
3. 月末手許保管ノ資金ハ「記事」欄ニ記入ヲ要ス

○利息附貸付部資金ニ對スル利息計算方竝ニ同利息

拂込方ニ關スル件

（大正十年三月廿五日
鐵官保五一三號通牒）

利息附貸付部資金ニ對スル利息計算方ハ大正八年九月十日公報通報利息附購買部資金ニ對スル利息計算方ニ、同利息拂込方ハ大正九年四月十二日鐵官保第六六二號ニ準據處理相成度

○貸付部出納事務ニ關スル件

（大正八年九月六日鐵官保
第一一四九號依命通牒
改正大正十一年三月鐵官保
第二九二一號依命通牒）

共濟組合貸付部ノ現金出納其他ハ當分左記ニ依リ處理相成度

- 一 貸付部資金ノ請求ハ購買部ノ例ニ準據スルコト
- 二 貸付ニ要スル資金ハ購買部勘定ヨリ一時流用スルコトヲ得
- 三 前項ノ流用額ハ當該年度ニ於テ隨時返還シ其返還額ニ對シテハ年五分ノ利子ヲ附スルコト
- 四 貸付部ニ於ケル整理科目左ノ如シ
借方。現金、預金、振替貯金、貸付金、未收入利子、雜費、利息、
貸方。資金、借入金、利息收入

五 年度末ニ於テ損益計算ノ結果剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ資金ニ加算シ損失ヲ生シタルトキハ資金ヨリ之ヲ減却スルコト

○貸付部決算報告ノ件 (大正十一年三月鐵官保 第二九七九號依命通牒)

國有鐵道共濟組合貸付部規程第十六條ニ依リ提出スヘキ決算報告書ハ別紙様式ニ依リ貸借對照表及損害計算表ヲ調製シ四月十日ニ提出相成度

(別紙様式)

其特種會計簿ノ取立及出納簿其外ハ當分式出納簿ニ對シ別紙様式ニ依リ

○貸付部出納簿取立ノ關スル件

大正十一年三月三日鐵官保 第二九七九號依命通牒

鐵道共濟組合

二 貸付部損益計算式ニ、同部及分式ハ大正十一年四月十二日鐵官保第六六二號ニ準シ
利息損益計算資金ニ對シテ、同部及分式ハ大正十一年四月十日公債取立利息損益計算資金

貸付部ニ關スル件

(大正十一年三月三日鐵官保)

○利息損益計算資金ニ對シテ、同部及分式ハ大正十一年四月十日公債取立利息損益計算資金

様式第一號

貸付部貸借對照表

大正 年度末現在

借	方	科	目	貸	方
		資	金		
		借	入		
		貸	付		
		銀	行		
		便	預		
		郵	貯		
		現	金		
		未	收		
		未	入		
		本	利		
		年	息		
		度	未		
		利	拂		
		益	入		
		金	利		
		合	息		
		計	金		

備考 1. 資金科目ニハ無利息資金及利息附資金ヲ合シ計算スルコト

2. 借入金科目ニハ購買部ヨリ一時借入シタル金額ノミヲ記入スルコト

(用紙ハ「ハールスカツ」半明)

様式第二號

貸付部損益計算表

大正 年度分

長

科目	借方		貸方		備考
	円	円	円	円	
利益					
利息收入					
計					
損失					
支拂利息					
雑費					
計					
差引本年度利益金(又損失金)					
合計					

(用紙フォーマスカタツテ半切)

關係法規

○官吏療治料給與方ノ件

(明治二十五年九月二十六日勅令第八〇號)

官吏ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外療治料實費ヲ以テ給與ス

但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其ノ府縣ノ負擔トス

○鐵道部内職員ノ療養ニ關スル件

(大正三年五月二十七日勅令第一〇五號)

- 第一條 鐵道部内所屬ノ鐵道手及雇員以下ノ現業員ニシテ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ鐵道大臣ノ定ムル所ニ依リ療養ヲ受クルコトヲ得
- 第二條 鐵道大臣ハ前條ノ療養ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規及傭人扶助令中療治料ニ關スル規定ハ第一條ノ職員ニ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鐵道部内職員療養規則

(大正三年六月一日公達第一號)

第一條 大正三年勅令第百五號第二條ニ依リ鐵道省ニ病院療養所及治療所ヲ置ク

前項ノ病院療養所及治療所ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 大正三年勅令第百五號第一條ノ職員ニシテ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ

罹リタル者ハ前條ノ病院療養所又ハ治療所ニ於テ之ヲ療養ス

前項ノ規程ニ依リ難キ場合ニ於テハ鐵道囑託醫又ハ其ノ他ノ醫師ニ就キ療養ヲ受ケ

シムルコトヲ得

第一項ノ職員ノ範圍ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 前條第二項ノ療養ニ必要ナル費用ハ鐵道大臣之ヲ受療者又ハ醫師ニ支拂フコ

トヲ得

附 則

本達ハ大正三年勅令第百五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道部内職員ニシテ本達施行以前ニ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ 現ニ療養

中ノ者本達施行ノ日ヨリ本達ニ依ル

○勅令百五(大正三年)號第一條 職員ニ關スル件 (大正三年六月一日) (達第五二七號)

大正三年勅令第百五號第一條ノ職員ハ本省所屬ノ傭人並各局所所屬ノ鐵道手、雇員及

傭人トス

備考

大正三年達第五二七號ノ職員中ニハ臨時雇傭又ハ試雇傭ヲ含ム(大正三年六月一日

公報注意)達第五二七號各局所所屬ノ鐵道手、雇員及傭人中ニ京濱山手線電氣工事

現場從事ノ鐵道手、雇員及傭人ヲ含ム(大正三年六月二日公報注意)

○鐵道部内職員療養事務取扱規程 (大正三年六月一日) (達第五二八號)

第一條 大正三年勅令第百五號第一條ノ職員ニシテ職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ

罹リタル者ノ療養ニ付テハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本規程ニ所屬長トアルハ官房各課所長及各局所長ヲ謂フ

第三條 職務執行上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者アルトキハ所屬長ハ速ニ鐵道病

院若ハ治療所又ハ鐵道囑託醫ニ就キ受療セシムヘシ

第四條 傷痍疾病ノ狀況其ノ他特別ノ事情ノ爲メ前條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ

所屬長ハ他ノ醫師ニ就キ受療セシムヘシ

第五條 前二條ノ場合ニ於テハ所屬長ハ別紙様式ニ依リ其ノ旨直ニ大臣ニ報告スヘシ

但シ治療所ニ於テ受療セシメタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 鐵道病院又ハ治療所ニ於テ受療セシムル場合ヲ除クノ外療養ニ必要ナル費用ハ受療者又ハ醫師ニ之ヲ仕拂フモノトス
 船、車、人足賃其ノ他直接醫師ノ職務ニ屬セサル費用ニシテ受療者ノ死亡其ノ他ノ事由ニ因リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ直接其ノ供給者ニ仕拂フコトヲ得
 第七條 療養料ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ左ノ書類ヲ添付シ所屬長ヲ經テ之ヲ提出スヘシ

- 一 診 斷 書
 - 二 療養料内譯書
 - 三 入院、看護又ハ特別ノ飲食物其ノ他療養上必要ノ費用ニ關スル醫師ノ證明書但シ請求書又ハ領收書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
 - 四 船車人足其ノ他直接ニ醫師ノ職務ニ屬セサル費用ハ其ノ證據書類
- 第八條 入院料ハ給料月額七十圓以上ノ者ニハ中等給料月額七十圓未滿ノ者ニハ並等ニ相當スル額ヲ支給ス
 特別ノ事情アリテ前項ニ依ルコト能ハサルトキハ所屬長ニ於テ適宜施行ノ上醫師ノ證明書ヲ添ヘ大臣ニ報告スヘシ
 第九條 療養料ヲ請求シタルトキハ戶籍謄本、印鑑證明書其ノ他必要ト認ムル書類ヲ

提出セシムルコトアルヘシ
 第十條 所屬長ハ療養料ノ請求書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ意見ヲ付シテ大臣ニ進達スヘシ
 第十一條 大臣ハ療養金額ヲ決定シ正當受領人ニ仕拂フ手續ヲ爲ス
 療養料ハ適宜數回ニ分チ之ヲ仕拂フコトヲ得

大臣別紙

傷病通報

年月日時	場所	事由	所屬	職名	姓名	記事

摘要

- 一、所屬長ハ何驛、何機關車又ハ何保線區等ノ名稱ヲ記載スヘシ
- 二、事由欄ニハ負傷又ハ罹病ノ原因症狀等ヲ詳細ニ記載スヘシ
- 三、記事欄ニハ鐵道病院、鐵道囑託醫又ハ其ノ他ノ醫師ニ受療セシメタル顛末ヲ記載スヘシ

○鐵道部内職員療養規則ニ依ル療養範圍 (大正三年六月一日 達第五二九號)

鐵道部内職員療養規則ニ依ル療養ノ範圍ニ就テハ左ノ通心得ヘシ

- 一 職務執行上疾病ハ當分鉛毒、煤煙又ハ有害瓦斯吸入ニ依ル疾患、日射病、熱射病、凍傷、漆ニ依ル皮膚炎ニ限り他ハ醫師ノ詳細ナル診斷書ヲ徵シ大臣ノ指揮ヲ承ケ療養セシムヘシ
- 二 外傷ニ基因スル疾患ニシテ特ニ溫泉療養ヲ必要トスル場合ニハ之カ療養ヲ爲サシムルコトヲ得
- 前項ノ溫泉療養ヲ爲シタルトキハ溫泉所在地、費用、期間、監督ノ方法及結果ヲ大臣ニ報告スヘシ
- 三 外傷ニ基因シ齒牙缺損シタル場合ニハ一回ヲ限り義齒ヲ給與スルコトヲ得
- 四 上肢又ハ下肢切斷ノ場合ニハ一回ヲ限り義手足ヲ給與スルコトヲ得
- 眼鏡、義眼ニ要スル費用ハ給與セス
- 五 療養中患部ノ補助器トシテビジョー附副木様帶又ハ撞木杖ヲ必要トスル場合ニハ一回限り之ヲ給與スルコトヲ得
- 六 看護婦又ハ附添人ヲ必要トスル場合ニ其ノ必要期間内醫療上事情ノ許ス限り之

ニ代ヘテ患者ノ家族ヲ附添ハシメタルトキハ食料及寢具料實費トシテ一日金五拾錢ヲ支給スルコトヲ得

○義手足ノ範圍ニ關スル件 (大正四年九月六日 公報注意)

大正三年六月達第五二九號ニ依リ公傷病者ニ義手足ヲ給與スルハ主トシテ機能障礙ヲ補充スル趣旨ニ有之從テ單ニ義指義趾ノミノ如キハ之ヲ給與スルノ限ニ在ラス

○職務執行上疾病ノ範圍擴張ニ關スル件 (大正五年九月七日 公報注意)

今般工場法ノ實施ニ伴ヒ農商務省ヨリ業務上疾病ノ取扱標準左ノ通決定内示有之候條同法ノ適用ヲ受クルモノト然ラサルモノトヲ問ハス是ニ該當スルモノアルトキハ大正三年六月一日達第五二九號「鐵道部内職員療養規則ニ依ル療養範圍」第一號ニ依リ大臣ノ指揮ヲ承ケ療養セシムル義ト心得ヘシ

工場法施行ニ付業務上疾病ノ取扱標準

- 一 砒素、砒素化合物、水銀、水銀用化合物、燐、燐含有物、鉛、鉛化合物、チアン水素酸、チアン化合物其他毒性又ハ劇性料品ヲ取扱フ業務ニ於ケル其ノ中毒諸症及業務ノ過程ニ於テ發生シタル毒性又ハ劇性物質ニ因ル中毒諸症

- 二 業務上使用スル鑛酸、苛性アルカリ、「クロール」「フルオール」フルオール化合物、クロロム化合物、「テール」其ノ他腐蝕性又ハ刺戟性料品ニ因ル腐蝕又ハ潰瘍
- 三 生絲工ノ手指蜂窩支織炎、研磨工ノ水疹及業務上使用スル「テール」「セメント」チャン化合物等ニ因ル皮膚濕疹
- 四 業務ニ因ル筋ノ強直、痙攣、斷裂、腱鞘炎、關節炎、脱腸
- 五 高熱物體ノ取扱、刺戟性瓦斯又ハ異物ニ因ル結膜炎其他ノ眼病
- 六 襤褸、獸毛、革皮其ノ他古物ヲ取扱フ業務ニ因リ丹毒、炭疽、「ペスト」、痘瘡
- 七 前各號列記以外ノ疾病ニシテ業務上ノ疾病ト認メラル、モノ

○公務負傷者マツサージ治療ノ場合療養ノ場合療養料支給方ノ件

(大正五年五月二十四日
公報注意)

公務負傷者ノマツサージ治療ハ醫師ノ指揮ニ依ル場合ハ療養料ヲ支給シ差支ナキコトニ決裁セラレタリ

○療養費用ニ關スル件

(大正四年八月十八日
公報注意)

從來職員ニシテ職務執行上傷痍ヲ受ケタル場合ニ醫師ノ來診カ死亡後ナルトキハ之カ費用ハ死亡者所屬驛所ノ雜費トシテ支出セシ處爾今療養費用トシテ處理スヘキコトニ決裁アリタリ

追テ明治四十二年十二月三日公報注意事項醫師臨檢竝屍體取扱費用支出ニ關スル件ハ自然消滅ニ歸シタリ

○現業員負傷罹病又ハ死亡ノ場合診斷又ハ檢案ノ費用支辨費

目ノ件 (大正六年二月八日
公報注意)

客年十一月達第一一二七號現業従事員負傷罹病又ハ死亡ノ場合之カ診斷又ハ檢案ノ費目ハ當該従業員所屬費目ノ執業費又ハ諸費ノ雜費支辨トス

○公私傷病合併症ノ認定ニ關スル件 (大正十一年七月
公報通報)

公務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者他ニ合併症ヲ存スル場合ハ左ノ通り取扱フコトニ決裁セラレタリ

- 一 職務執行上ノ傷痍又ハ疾病カ原因トナリテ誘發シタル疾病ハ總テ職務執行上ノ疾病ニ準シ取扱フコト

- 二 職務執行上ノ傷痍又ハ疾病カ原因トナリテ増悪セシメタル疾病ハ職務執行上ノ疾病ニ準シ治療ヲ施シ機能障害ニ對スル給付決定上ニ於テモ相當斟酌ヲナスコト
- 三 職務執行上ノ傷痍又ハ疾病ヲ治療セムトスルニ當リ餘病ノ爲メ經過ヲ妨ケララル場合其ノ餘病ニ付テハ職務執行上ノ傷病治療ニ必要ナル程度ニ於テノミ職務執行上ノ傷病ニ準シ治療ヲ施シ機能障害ニ對スル給付決定ニ際シテハ斟酌ヲ爲ササルコト

○各廳技術工藝者就業上死傷手當内規

(明治十二年二月一日
太政官達第四號)

各廳技術工藝ノ者就業上死傷ノ節手當内規別紙ノ通相定候條自今右ニ照準施行可致此旨相達候事

但一般官吏ト雖モ技術上死傷ノ節ハ本文ニ準シ候儀ト可相心得事
(別紙)

各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規

第一條 凡技術工藝ノ者就業上死傷ニ罹ル時ハ其原因竝傷痍ノ輕重ヲ檢察シ醫員ノ診斷證書ヲ審査シ表面ニ照シテ手當金ヲ給スヘシ

第二條 傷痍ノ輕重ヲ分テ左ノ五等トス

- 一等 重傷死ニ至ル者
- 二等 重傷死ニ至ラスト雖モ終身不具トナリ自用ヲ辨スルコト能ハサル者
- 三等 自用ヲ辨シ得ルト雖モ終身事業ヲ營ムコト能ハサル者
- 四等 事業ヲ營ムコトヲ得ルト雖モ身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得サル者
- 五等 身體ヲ毀損スト雖モ一時治療ヲ施シ止タ其癩痕ヲ存スル迄ニテ其運用全ク舊ニ復スル者

第三條 手當金ヲ分ツテ療養埋葬及扶助ノ三種トス

- 一等傷ニ罹ル者ハ療養料埋葬料ヲ給シ遺族ニ扶助料ヲ給ス尤遺族ハ死者ニヨリ生計ヲ營ミ來リタルモノ(一戸内籍ニ在ル者)ニ限ルヘシ
 - 但即死シテ療治ヲ施サ、ル者ハ療養料ヲ給セス且療養中他病ノタメニ死スル者ヘハ扶助料ヲ給セス
 - 埋葬料ハ親戚ニ給ス親戚ナキトキハ同僚又ハ其所在戸長ニ下付シテ埋葬セシム
 - 二等三等四等ノ傷痍ニ罹ル者ハ療養料扶助料ヲ給ス
 - 五等ノ傷痍ニ罹ル者ハ療養料ノミヲ給ス
- 但身體ヲ毀傷シ舊ニ復スルノ見込アリト雖モ治療數月ニ涉リ職務ヲ免スル者ハ四

等傷ニ準シ扶助料ヲ給ス尤療養料ハ免職翌日ヨリ之ヲ給セス

各廳技術工藝者就業上死傷手當内規表

給與事項	奏任		判任		外
	料	圓	料	圓	
一等	遺族扶助料	金參百五拾圓	金百七拾五圓	金九拾圓	
二等	扶助料	金參百五拾圓	金百七拾五圓	金九拾圓	
三等	同上	金貳百五拾圓	金百貳拾五圓	金六拾五圓	
四等	同上	金百五拾圓	金七拾五圓	金四拾圓	
五等	同上				

右ノ金高ハ表面ノ額ヲ最上限トシ實際ノ情狀ヲ酌量シテ支給ス
療養金ハ總テ現費トス
備名義ヲ以テ等内外官吏ノ事務ヲ取扱フ者ハ月俸參百五拾圓以上奏任ニ參
百五拾圓未滿參拾圓以上ハ判任ニ參拾圓未滿ハ等外ニ準シ日給ノ者ハ其給
三十日分ヲ積算シ月俸ニ見做シ本文ノ割合ヲ以テ給ス

(備考)

太政官指令(明治十七年九月農商務省伺ニ對シ)

伺之趣恩給ヲ受クル官吏ハ療養料ヲ除クノ外ハ給與スル限リニ非ラスト可相心得事

遞信省照會(明治二十一年二月五日會甲第一三二八號)

官吏技術工藝就業上負傷シタル者ハ明治十二年元太政官第四號達ニ據リ療養料給與セラル儀ニ有之候付
テハ若シ非常時變ノ爲メ負傷シタルモノハモ該達ニ準據シ療養料ヲ給與可然哉

追テ本文ノ場合ニ於テ傭員ノ如キ文官恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケサル者ニシテ終ニ死亡シタルトキハ療養
料ノ外猶埋葬料ヲ給シ遺族ニ扶助料ヲ給與シ可然哉

大藏省回答(明治二十一年四月十日乾第七六五號)

四月五日會甲第一三二八號御照會非常時變ニ際シ官物保護ノ爲負傷シタルモノ療養料ノ件右ハ一定ノ規則
無之候ニ付事實有之際事情ヲ詳カニシテ其ノ都度御協議有之候様致度

○技術官就業上重傷ヲ負ヒ死亡者ニ手當金給否ノ件 (明治四十四年十二月八日 公報 注意)

技術官就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ儀ニ關シ左記ノ通り通牒アリタリ
内閣達第八號

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ儀ニ關シ別紙甲號ノ通大藏
次官ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通回答致置候間爲念及通牒候也

明治四十四年十一月二十七日

内閣書記官長

鐵道院總裁宛

(甲 號)

往第一〇〇五六號

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニハ明治十二年太政官達第四號ニ依リ埋葬料及遺族扶助料並俸給令ニ依リ死亡賜金ヲ給與シ尙遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ受クル權利ヲ有スルモノト認メ從來ヨリ當省ハ勿論各省共手當金給與ノコトニ取扱來リ候處今般別紙農商務省次官ヨリノ照會ニ依レハ獨リ農商務省ニ於テハ明治十七年以來太政官ノ指令ニ依リ療養料ノ外ハ支給セサルコトニ相成居候趣ナルカ右ハ今日ニ於テモ尙太政官指令ノ通支給不相成御趣旨ニ有之候哉別ニ明文モ無之疑義ニ涉リ候間理由共詳細承知致度此段及御照會候也

明治四十四年九月二十一日

大藏次官

内閣書記官長宛

(別 紙)

林第一四五一號

明治四十四年四月二十日

農商務省次官

大藏次官宛

明治十二年太政官達第四號技術工藝者就業上死傷手當内規ニ依リ扶助料ヲ給與シタル後尙恩給ヲ上請シ不苦儀ナルヤ云々當省ノ伺ニ對シ恩給ヲ受クル官吏ヘハ療養料ヲ除クノ外ハ給與スル限ニ非ラサル旨別紙寫ノ通太政官ノ指令アリタルヲ以テ恩給及遺族扶助料ト該達ノ扶助料トハ併行セシメサルコトニ取扱來リタル處陸軍省及海軍省ニ於テハ貴省ノ回答ニ基キ渾テ之ヲ併給セル趣ニ有之右ハ差支ナキ義ト認ムルモ爲念御意見承知致度右照會ス

(別 紙)

明治十七年九月農商務省伺

官吏技術上死傷手當ノ儀ハ是迄明治十二年二月第四號御達就業上死傷手當内規ニ據リ處分致來候處本年一月第一號ヲ以テ文官恩給令御布達相成候得共一時ノ手當ト終身ノ恩給トハ自ラ御趣旨ノ異ナル者ニ候得ハ併行シテ牴觸セサルハ勿論ト存候何ントナレハ恩給令ハ勅奏判任官在職ノ年數及其ノ年齢ニ依リ退官者ヲ待ツ所ノ恩給ニシテ其ノ第二條第三條第四條ノ如キ未タ年數ノ滿タスシテ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負ヒタル者ニ恩典ヲ賜ハル所ノモノニシテ別ニ同令中死傷手當内規ニ據リ手當ヲ受クル者ハ恩給ヲ支給セストノ明文ナキヲ以テナリ依テ扶助料給與ノ後尙恩給ヲ上請シ不苦儀ニ候哉

同年十二月太政官指令

(乙 號)

伺ノ趣恩給ヲ受クル官吏ヘハ療養料ヲ除クノ外ハ給與スル限ニ非スト可相心得事

内閣達第五九號

技術官ニシテ就業上重傷ヲ負ヒ死亡セシ者ニ手當金給否ノ儀ニ付御照會ノ趣了承右ハ死傷手當ハ死亡賜金及遺族扶助料ト併給スヘキモノニ非スト存候此段及回答候也

明治四十四年十一月二十七日

内閣書記官長

大藏次官宛

○備人扶助令

(大正七年十一月二十日勅令第三八二號)

第一條 政府ハ其ノ雇傭スル職工、鑛夫其ノ他ノ傭人業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ本令ニ依リ扶助金ヲ支給ス但シ傭人自己ノ重大ナル過失ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

扶助金ノ支給ヲ受クヘキ者法令ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

扶助金ノ支給ハ傭人ヲ解雇スルモ變更スルコトナシ

第二條 扶助金ハ療治料、休業扶助料、障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ支給ス

一 療治料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官費治療ヲ受ケサルモノニ之ヲ支給ス

二 休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサル者ニ之ヲ支給ス

三 障害扶助料ハ負傷又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ支給ス

四 一時扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病ノ治癒セサル者ニ之ヲ支給ス

五 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ支給ス

六 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ支給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

一時扶助料ヲ支給スルトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ支給セス

第三條 障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料又ハ葬祭料ノ額ハ別表金額ノ範圍内ニ於テ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、身體障害ノ輕重、勤務年限ノ長短其ノ他各種ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第四條 療治料又ハ休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ拂渡スモノトス

第五條 負傷又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ支給シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ支給ス

第六條 遺族扶助料ノ支給ヲ受クヘキ者ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第七條 負傷又ハ疾病カ傭人ノ解雇後ニ再發シタル場合ニ於テハ扶助金ハ之ヲ支給セス

第八條 解雇後一年ヲ經過シタルトキハ本令ニ依ル扶助金ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ扶

助金ヲ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第九條 扶助金算出ノ標準タル賃金ノ額ヲ定ムル方法ニ關シテハ工場法施行令第十六條第一號及第二號ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ主務官廳之ヲ定ム
 第十條 政府ヨリ給與金ヲ受クル相互救済ヲ目的トスル組合ノ組合員タル傭人ニハ本令ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際官役職工人夫扶助令ニ依リ療治料又ハ給助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本令施行ノ日ヨリ本令ニ依ル扶助金ヲ支給ス
 官役職工人夫扶助令ハ之ヲ廢止ス

(別 表)

種 別	療 治 料		種 別	金 額
	休 業 扶 助 料	障 害 扶 助 料		
葬 祭 料	休業三月以内一日ニ付	終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	實 費	賃 金 日 額 二 分 ノ 一
	休業三月ヲ超ユル日數一日ニ付	終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者		
遺 族 扶 助 料	終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサル者、建康舊ニ復スル能ハサル者又ハ女子ニシテ其外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者	實 費	賃 金 百 七 十 日 分 以 上 三 百 日 分 以 下
		身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者		賃 金 百 五 十 日 分 以 上 二 百 五 十 日 分 以 下
一 時 扶 助 料	終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	賃 金 百 日 分 以 上 二 百 日 分 以 下	實 費	賃 金 三 十 日 分 以 上 百 二 十 日 分 以 下
		賃 金 百 日 分 以 上 二 百 日 分 以 下		賃 金 百 七 十 日 分 以 上 三 百 日 分 以 下
葬 祭 料	終身勞務ニ服スルコト能ハサル者	賃 金 百 日 分 以 上 二 百 日 分 以 下	實 費	賃 金 百 七 十 日 分 以 上 三 百 日 分 以 下
		賃 金 百 日 分 以 上 二 百 日 分 以 下		十 圓 以 上 三 十 圓 以 下

○臨時傭人職工人夫公傷ノ場合給與方一定ノ件 (大正十年六月二十一日 公報 通報)

臨時傭人ノ職工人夫公務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ノ給與方左ノ通決定セラレタリ

- 一 供給契約ニ依リ使役スル者ニ對シテハ休業期間中ノ賃金並傭人扶助令ニ依ル扶助金ヲ支給セス但シ認可ヲ經テ慰藉金又ハ見舞金ヲ贈與スルコトヲ得
- 二 常傭人ノ補缺ノ爲又ハ常傭人ニ準シテ使役スル爲直接傭入レタル者ニ對シテハ傭人扶助令ニ依リ相當扶助金ヲ支給ス

○公務上ノ傷痍及疾病者ノ療養範圍 (大正三年九月 達第八四一號)

各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規、官役職工人夫扶助令及明治二十五年勅令第八〇號官吏療治料給與方ノ件ニ依ル療養ノ範圍ニ就テハ本年達第五二九號ヲ準用ス

○公務上死傷者取扱心得 (明治三十一年八月鐵道乙第四六一七號達 改正 大正九年十一月達第七一七號)

第一條 公務ノ爲メ死傷シタルトキハ驛員ハ驛長 (運輸事務所 長ヲ經由シ) 機關庫員ハ其主任其他ハ 主管所場長 (長ナキ所ハ主任) ヨリ直チニ其狀況ヲ主管部長ニ報告スヘシ

第二條 負傷者ハ第一條報告者 (當該員不在ノ場合ニハ其主管者ト否) ニ於テ主管部長ノ豫定ス

ル病院若クハ醫師ニ就キ受療セシムヘシ

但傷痍ノ狀況又ハ負傷ノ場所等ニ依リ豫定ノ病院若クハ醫師ニ就キ受療セシムルコト能ハサルトキハ便宜ノ處分ヲ施シ置キ主管部長ノ認可ヲ經ヘシ

第三條 入院料ハ判任官及俸給月額七拾圓以上ノ雇員ハ中等其他雇員以下ハ下等ヲ支給ス

但特別ノ事情アルモノハ主管部長ノ認可ヲ受ケ本條規定以上ノ入院料ヲ支給スルコトヲ得

第四條 治療久シキ亘ルトキハ第一條ノ報告者ハ時々患者ヲ訪問シ其狀況ヲ主管部長ニ報告スヘシ

第五條 傷痍治療シタルトキハ第一條ノ報告者 (驛長ハ運輸事務所 長ヲ經由シ) ハ醫師ノ證明書ヲ添ヘ技術工藝者就業上死傷手當内規又ハ官役人夫死傷手當規則ニ依リ傷痍等級ノ見込ヲ申出ツヘシ

第六條 療養料、扶助料、埋葬料ノ請求ハ第一條ノ報告書ヲ經由 (驛長ハ當運輸事務所 長ヲ經由シ) 差出スヘシ

第七條 療養料ヲ請求スルニハ左記ノ書類ヲ添付スヘシ

一 醫師ノ診斷書

但負傷全癒豫定日數ノ記載ヲ要ス又入院ヲ要スルモノハ其證明ヲ要ス

一 病院ニ於テ療養ヲ要スルモノハ入院料、施術料、證明書、請求書若クハ領收書

但合計金額一日又ハ一回分金額並入院料ハ其等級等明細記入ヲ要ス

一 自宅ニ於テ療養スルモノハ醫師ノ診察料、施術料、藥劑料、繙帶布料等證明書請求書若クハ領收證

但合計金額一日又ハ一回分金額等明細記入ヲ要ス

一 特別ノ飲食品ヲ要スルモノハ醫師ノ物品ヲ指定シタル證明書及販賣者ノ請求書若クハ領收證

一 看護人ヲ要スルモノハ醫師ノ證明書及供給者ノ看護料證明書請求書若クハ領收書

一 負傷者ノ爲メニ要シタル車人足賃、診斷書料等アルトキハ其理由證明書請求書若クハ領收書

第八條 扶助料ヲ請求スルニハ左記ノ書類ヲ添付スヘシ

一 醫師ノ診斷書

一 戶籍吏ノ證明アル死亡當時ノ戶籍謄本

一 警察官ノ死體檢案書アルモノハ其寫

一 死者戶主ニアラス且妻子ナキモ一戶籍内ニアル遺族ニシテ其死者ニ依リ生計ヲ

營ミ來リタルモノニハ其旨緣故アル親族又ハ近隣ノモノ二名以上ノ證明書

第九條 埋葬料ヲ請求スルニハ左記ノ書類ヲ添付スヘシ

一 戶籍吏ノ證明アル死亡當時ノ戶籍謄本

一 戶主若クハ相續人ナキカ爲メニ他人ニ於テ埋葬取扱ヒタル分ハ埋葬證ヲ發シタル戶籍吏ノ證明書

一 警察官ノ死體檢案書アルモノハ其ノ寫

○傳染病豫防救治ニ従事者感染又ハ

死亡シタルトキノ手當金ノ件

(明治三十三年三月六日法律第三〇號)

第一條 判任以上ノ官吏ニアラスシテ傳染病ノ豫防救治ニ従事スル者公務ニ因リ病毒

ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本法ノ規定ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條 手當金ハ左ノ四種トス

一 療治料

二 給助料

三 弔祭料

四 遺族扶助料

第三條 病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス、感染者治愈シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス

遺族中遺族扶助料ヲ受クヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條 遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ別表ニ依リ一時ニ之ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ別表ノ範圍内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

第五條 療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス

給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス

弔祭料ハ月給一箇月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ本屬長官適宜之ヲ給ス

第六條 手當金ハ國庫支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ國庫ノ負擔トシ府縣費支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス

第七條 地方長官ハ市區町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其ノ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

(別表)

等級	月給	遺族扶助料
一 等	二百圓以上	千圓
二 等	百六十圓以上	九百圓
三 等	百三十圓以上	八百圓
四 等	百圓以上	七百圓
五 等	八十圓以上	六百圓
六 等	七十圓以上	五百圓
七 等	六十圓以上	四百五十圓
八 等	五十圓以上	四百圓
九 等	四十圓以上	三百五十圓
十 等	三十圓以上	三百圓
十一 等	二十圓以上	二百五十圓
十二 等	十圓以上	二百圓
十三 等	十圓未滿	百圓

○傳染病豫防救治ニ従事者ノ療治料ニ關スル件(明治三十三年四月勅令第一四一號)

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ハ給料ヲ受クル者ニ在リテハ其給料額ニ依リ同法別表ノ等級ニ照シ一等乃至四等ノ者ニハ一日三圓、五等乃至十二等ノモノニハ一日二圓、十三等ノ者ニハ一日一圓ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニアリテハ一日三圓以內ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

○傳染病豫防救治ニ従事シ感染死亡者ノ手當金ニ關スル件

(明治十九年七月閣令第二三號)
改正 明治三十三年勅令第一四二號)

官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ従事シ爲ニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

- 一 手當金ヲ分テ弔祭料、救助料、療治料ノ三種トス
- 一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 一 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス
- 一 弔祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月給一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

一 救助料ヲ分テ二等トス

- 一 等 俸給五箇月分日給百五十日分
- 二 等 俸給三箇月分日給九十日分
- 一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス
- 一 療治料ハ高等官ニハ一日三圓判任官ニハ一日二圓ヲ給ス

○恩給法拔萃(大正十二年四月法律第四十八號)

第一章 總 則

第一條 公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權

利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサル

トキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六條 普通恩給又ハ増加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スル

トキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給又ハ増加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四

十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條 時効期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クカラサル事變ノ爲請求ヲ爲ス

コト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時効完成セス

時効期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治

產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ル

ニ至リタル日ヨリ六月內ハ時効完成セス

時効期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効期

間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時効期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同

一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ

依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス公務員

若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理

由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於

テ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ

權利消滅ス

一 死亡シタルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキト

キハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依

ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外内閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年内ニ内閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ内閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 内閣總理大臣及内閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條 内閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 公務員

第一節 通則

第十九條 本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條 文官トハ武官又ハ官内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十四條 待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職

二 判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技手、感化院職員及矯正官職員

三 地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四 前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職

二 現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營者若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

- 三 效育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
- 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡查若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
- 五 待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官失官ノ外退職
- 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職
- 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職
- 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
- 五 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 公務員所定ノ年數在勤シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢失ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ

之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及増加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル増加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス
公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

- 一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
- 二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
- 三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ増加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及増加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

- 一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ
- 二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該

當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

- 一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ
- 二 再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ
- 三 再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ増加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷病又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

- 一 後ノ傷病又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ基因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ヨリ前ノ増加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ増加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷病又ハ疾病ノミニ因ル増加恩給年額カ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル増加

恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

- 二 後ノ傷病又ハ疾病カ普通公務ニ基因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ニ前ノ増加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ増加恩給ノ年額トス

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

- 一、公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵卒トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 二、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ

タルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

第五十九條 文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ
教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ此ノ限ニ在ラス
待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ其俸給又ハ給料ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節 恩 給 金 額

第六十條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス
前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年末滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額

三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス
第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十四條 待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス
前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年末滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項並第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十五條 公務員ノ増加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癱疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ増加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十七條 文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條 待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍ニ在ルモノヲ云フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付ケハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ
二 普通支給ヲ給セララル、者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ實父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限り之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ未成年ノ子ハ不具痲疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途無ク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ額
- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額
- 三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラル、普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ

扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

- 一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニアラス
- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ
- 三 父、母、祖父又ハ祖母其家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其

ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

- 一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三 不具癱疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癱疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
(三、四、項略)

第二號表

乙		甲					傷病原因		階級		親任		奏任		判任		卒			
公	通	普	號	戰	又	戰	因	原	差	等	將	勅	佐	尉	准	士	下	士	兵	卒
第	第	第	務	戰	戰	戰	差	原	等	等	官	任	官	尉	士	官	下	士	兵	卒
四	三	二	キ	準	ハ	ハ	等	原	等	等	官	任	官	尉	士	官	下	士	兵	卒
項	項	項	公	ス	ハ	ハ	等	原	等	等	官	任	官	尉	士	官	下	士	兵	卒
第	第	第	務	ス	ハ	ハ	等	原	等	等	官	任	官	尉	士	官	下	士	兵	卒
四	三	二	務	ス	ハ	ハ	等	原	等	等	官	任	官	尉	士	官	下	士	兵	卒
項	項	項	務	ス	ハ	ハ	等	原	等	等	官	任	官	尉	士	官	下	士	兵	卒
一、〇二〇	一、三六〇	一、六〇〇	一、九二〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
七六八	九六〇	一、二〇〇	一、四四〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、一〇〇	七五〇	一、一〇〇	九〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇
五二二	六四〇	八〇〇	九〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四六二	五七六	七二〇	八六四	一、〇八〇	九〇〇	七二〇	五七六	四五〇	三六〇	二七〇	一八〇	九〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四三三	五二八	六〇〇	七九二	九〇〇	八五〇	六〇〇	五八〇	四三〇	三三〇	二四〇	一五〇	八〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三八四	四八〇	六〇〇	七二〇	九〇〇	七五〇	六〇〇	四八〇	三七五	三〇〇	二二〇	一四〇	八〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

號	第五項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三〇〇	三〇〇
務	第六項	六〇〇	四〇〇	三〇〇	二八〇	二六〇
						二四〇

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

○恩給法施行令拔萃

(大正十二年八月勅令第三六七號)
(改正大正十二年十二月勅令第五二〇號)

第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲サ、リシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ云フ

三 鐵道醫

第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦若ハ水雷艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乗員トシテノ現業勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第二十二條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

- 一 マラリア(黒水熱ヲ含ム)
- 二 猩紅熱
- 三 コレラ
- 四 脚氣(戰地ニ限ル)
- 五 發疹チフス
- 六 腸チフス
- 七 パラチフス
- 八 ペスト

九 回 歸 熱
十 赤 痢

十一 流行性腦脊髄膜炎
十二 流行性感胃

十三 肺ヂストマ病
十四 トリバノゾーム病

十五 ワイルス氏病
十六 カラアザール

十七 黃 熱

第二十三條 恩給法第四十九條第二項ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ掲クルモノヲ云フ
六 職務ヲ以テコレラ又ハベストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲僱リタル該疾病

第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具廢疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス
特別項症

- 一 常ニ就床ヲ要シ且複雑ナル介護ヲ要スルモノ
- 二 重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雑ナル介護ヲ要スルモノ
- 三 身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

- 一 複雑ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
- 二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キササルモノ
- 三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ
- 四 兩眼ノ視力カ視標○・一ヲ○・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

- 一 精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ
- 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
- 三 兩眼ノ視力カ視標○・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 兩耳全ク聾シタルモノ

- 五 腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
- 六 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

- 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 兩睪丸ヲ全ク失ヒタルモノ
- 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
- 五 兩耳ノ聽力ハ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

- 一 泌尿器ノ機能ヲ大ニ妨アルモノ
- 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
- 四 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

- 一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
- 二 頭部、顔面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ

- 三 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 四 一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

- 一 頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
- 二 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
- 三 一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
- 四 一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス
視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共
通視力標ニ依ル

第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等階級ニ依
リ勅任官、奏任官、又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等階級ノ定メナキ者ハ各其ノ最
下位ノ官等階級ニ依ル

第三十五條 廢官、廢職、廢廳、廢校又ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル
者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看
做ス

○工場法 拔萃

(明治四十四年三月法律第四六號)
(改正大正十二年三月法律第三三號)

第十五條 職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ヲ扶助スヘシ

○工場法施行令 拔萃

(大正五年八月勅令第一九三號)
(改正大正十一年十一月勅令第四七一號)

第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ當該職工ノ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明シタル場合ヲ除クノ外本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セラル、コトナシ

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金二分ノ一以上ノ扶助料ヲ支給スヘシ但シ其ノ支給引續

キ三月以上ニ涉リタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ賃金三分ノ一迄ニ減スルコトヲ得

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲クル區別ニ依リ扶助料ヲ支給スヘシ

- 一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金百七十日分以上
- 二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金百五十日分以上
- 三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト 賃金百日分以上
- 四 身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ 賃金三十日分以上

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族ニ賃金百七十日以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ十圓以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬

相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族

扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一 職工ノ家督相續人又ハ戸主

二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

三 職工ノ親族又ハ職工ト同一ノ家ニ在ル者ニシテ職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第十三條 第六條ノ規定ニ依ル扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ第五條ノ規定ニ依ル費用ヲ本人ニ支給スル場合亦同シ

第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金百七十日分以上ノ扶助料ヲ支給シ以後本章ノ

規定ニ依ル扶助ヲ爲サ、ルコトヲ得

第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サ、ルコトヲ得

一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ解雇前ニ又ハ解雇後一年內ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發シタルトキ

第十六條 第六條乃至第八條及第十四條ノ規定ニ依ル扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 一定額ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃金ノ額

二 稼高又ハ就業時間ニ依リ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其前就業三十日分ノ賃金ノ平均額但シ就業三十日ニ滿タサルトキハ其ノ賃金ノ平均額トス

三 前二號ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ニ於テ定ムル金額但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ムル事ニ依リテ之ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食
 第十七條 前條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リテ金額ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食
 事其ノ他ノ給與ヲ支給スルトキハ其ノ價額ハ之ヲ金額中ニ加算ス
 第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ依リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第
 七條各號ニ掲クル身體障害ノ程度其他ノ扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ
 調停ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得
 第十九條 工業主ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其他扶助ニ關シ必要ナル事項
 ル定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得
 第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

○商 法 抜 萃

(明治三十二年三月 法律第四十八號)

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ
 傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用

ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職
 務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコ
 トヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ

支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔ト
 ス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
 - 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
 - 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 - 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求
 スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一箇月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス
(參照) 第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債拂ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

○健康保險法

(大正十一年四月二十一日
法律第七〇號)

第一章 總 則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス
第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對償トシテ事業主

ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス
命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險者ハ被保險者ヲ使用スル事業主ニ對シ其ノ使用スル者ノ異動、報酬其ノ

他健康保險ノ施行ニ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシムルコトヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ保險者ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ノ規定ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十二條 政府ノ事業ニ使用セララルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セララルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セララルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限リニ在ラス

第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セララルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

一 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體事業

三 電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業

四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

六 前號ニ掲クモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

七 貨物積卸ノ事業

八 前各號ニ掲クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレサルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者又ハ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間内ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、保險料ヲ納付セスシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保險者

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主、其ノ事業ニ使用セラルル被保險者及第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セシムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ

申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

前項ノ被保險者ハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキト雖第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルトキハ仍之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財

産ノ状況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ
他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ヲ指定シテ其
ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス
第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分
若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合
ノ事業若ハ財産ノ状況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消
シ、役員ヲ解散シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分
合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セララル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ム
ル所ニ依ル

第四章 保 險 給 付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容
スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ
於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ
得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金
トシテ一日 付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ
因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサル
ニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタ
ル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス
業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ療養ノ給付
及傷病手當金ノ支給ハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

被保險者ハ前二項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間療養ノ給付ヲ受ク

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超

エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一、他ノ法令ノ規定ニヨリ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩

ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十二相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セ

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタ

ルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行為ニ依リ又ハ故意ニ事

故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

第六十一條 被保險者鬪爭若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一、陸海軍ニ徴收又ハ召集セラレタルトキ

二、本法施行區域外ニ在ルトキ

三、感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四、監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ
他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

前項ニ掲クル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタ

ル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發ス

ル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保険料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保険料ヲ徵收セス

一 傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保険料ヲ納付スル義務ヲ負

フ但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保険料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保険料ヲ被

保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保険料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求

シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服ア

ル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保険料其ノ他本法ノ定ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者

ハ其ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署ニ訴願シ其ノ裁

決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依ル訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康保險

審査會ノ審査ヲ經、主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スヘシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ

不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊

問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ

爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決

定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ

審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第

百六十七條及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ノ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス
本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(參照)

明治二十九年^{四月二十七日公布}法律第八十九號民法抄錄

第五百十三條 催告ハ六ヶ月内ニ裁判上ノ請求、和解ノ爲メニスル呼出若クハ任意出頭、破産手續參加、差押、假差押又ハ假處分ヲ爲スニ非レハ時効中斷ノ效力ヲ生セス

明治二十三年^{四月十日公布}法律第百五號訴願法抄錄

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

明治二十三年^{四月二十一日公布}法律第二十九號民事訴訟法抄錄

第六十七條 法律上ノ期間ハ裁判所ノ所在地ニ住居セサル原告若ハ被告ノ爲メ其住

居地ト裁判所所在地トノ距離ノ割合ニ應シ海陸路八里毎ニ一日ヲ伸長ス八里以外ノ端數三里ヲ超ユルトキモ亦同シ

裁判所ハ外國又ハ島嶼ニ於テ住所ヲ有スル原告若クハ被告ノ爲メ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

第七十四條 天災其他避ク可カラサル事變ノ爲ニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル

原告若クハ被告ニハ申出ニ因リ原狀回復ヲ許ス

原告若クハ被告カ故障期間ヲ懈怠シタルトキハ其ノ過失ニ非スシテ闕席判決ノ送達ヲ知ラサリシ場合ニ於テモ亦之ニ原狀回復ヲ許ス

第七十五條 原狀回復ハ十四日ノ期間内ニ之ヲ申立ツルコトヲ要ス

右期間ハ障碍ノ止ミタル日ヲ以テ初マル此期間ハ當事者ノ合意ニ因リ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

懈怠シタル不變期間ノ終ヨリ起算シテ一ケ年ノ滿了後ハ原狀回復ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十六條 原狀回復ハ追完スル訴訟行爲ニ付キ裁判ヲ爲ス權アル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ申立ツヘシ

此書面ニハ左ノ書件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 原狀回復ノ原因タル事實

第二 原狀回復ノ疏明方法

第三 懈怠シタル訴訟行爲ノ追完

即時抗告ノ提出ヲ懈怠シタルトキハ原狀回復ノ申立ハ不服ヲ申立テラレタル裁判所又ハ抗告裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 原狀回復ノ申立ニ付テノ訴訟手續ハ追完スル訴訟行爲ニ付テノ訴訟手續

ト之ヲ併合ス然レトモ裁判所ハ先ツ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判ノミニ其訴訟手續ヲ制限スルコトヲ得

申立ノ許否ニ關スル裁判及ヒ其裁判ニ對スル不服ノ申立ニ付テハ追完スル訴訟行爲ニ於テ行ハル可キ規定ヲ適用ス然レトモ申立ヲ爲シタル原告若クハ被告ハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

原狀回復ノ費用ハ申立人之ヲ負擔ス但シ相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生シタルモノハ此限ニ在ラス

明治三十一年^{六月二十一日公布}法律第十四號非訟事件手續法抄錄

第二百六條 民法第八十四條、第一千七百七條及民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條

第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ商法施行法第

十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ
當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

○鐵道省給料支給規程拔萃

(大正三年四月達第三二二號)
(改正大正十年十月達第八四一號)

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル日數ハ之ヲ勤務日數ニ算入ス但シ第一號及第二號ノ場合ニ於テ病氣又ハ私事ノ故障ニ因リ當該日ノ前後引續キ缺勤シタルトキ及第三種傭人ニ對スル第一號ノ休暇日ハ此ノ限ニ在ラス

一、休暇者但シ勤務ニ當番非番アル者ニ對シテハ之ヲ勤務日數ニ算入セス

二、非番ノ日數

三、父母ノ祭日

四、鐵道部内職員忌引規程ニ依ル忌引缺勤

五、出張中ノ病氣缺勤

六、職務上傷痍疾病ニ因ル缺勤

七、傳染病者ノ爲交通遮斷又ハ隔離法施行中ノ缺勤

八、徵兵検査又ハ簡閱點呼當日ノ缺勤竝四月一日以後ニ於テ轉勤ヲ命セラレ赴任シタルモノ舊任地ニ於テ徵兵検査又ハ簡閱點呼ヲ受クル場合ニ於テ往復ニ要スル最少限度ノ日數

九 水火災其ノ他非常罹災ニ因ル三日以内ノ缺勤

十 職務上ニ係ル事件ニ付證人參考人又ハ鑑定人トシテ裁判所ニ召喚セラレタル當日ノ缺勤

十一 鐵道部内職員休暇規程ニ依ル慰勞休暇日

演習ノ爲陸海軍ニ應召中ノ期間ハ之ヲ勤務日數ニ算入シ陸海軍ニ於テ受クル俸給支給額本規程ニ依ル給料支給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第十四條ノ二 日給者ニシテ鐵道事故ノ爲テ刑事被告トナリ未決ニ在ル期間ハ故意怠慢ノ顯著ナル場合ヲ除クノ外之ヲ勤務日數ニ算入シ其ノ期間給料三分ノ一ヲ支給ス

○傳染病豫防救治ニ従事者ノ手當金ニ關スル件 (明治二十八年六月勅令第七一號)

傳染病豫防救治ニ従事スル官吏准官吏及傭員ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ各其ノ俸給又ハ給料月額三分ノ一以内ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

但府縣ノ收入ヨリ俸給又ハ給料ヲ受クル官吏准官吏及傭員ニシテ本官職ノ資格ヲ以テ従事スル者ニ給スル手當並傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員ト爲ル者ニ給スル手當ハ府縣ノ負擔トス

○鐵道局長職務權限 (大正四年六月達第六三〇號 改正十三年一月達第二三號)

第二條 局長ハ左ノ事項ヲ專決施行スルコトヲ得

七 一時扶助金、退官賜金、死亡賜金、治療料及死傷手當等ノ諸給與(中畧)ヲ給スルコト

五十六 所屬共濟組合員ニ對スル給付ノ決定及仕拂ヲ爲スコト、但シ年金及公傷一時金ノ決定ハ此ノ限ニ在ラス

五十七 所屬員ノ共濟組合加入ニ關スル處分ヲ爲スコト

五十八 所屬共濟組合員ニ對スル政府給與金ノ決定及支出ヲ爲スコト

○鐵道省建設事務所長、改良事務所長及電氣事務所長職務權限

(大正二年六月達第四四一號 改正同十三年一月達第二四號)

第二條 所長ハ左ノ事項ヲ專決施行スルコトヲ得

五 各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規、傭人扶助令及鐵道部内職員療養規則ニ依リ埋葬料、扶助料及療養料ヲ給與スルコト

五ノ二 所屬共濟組合員ニ對スル給付ノ決定及仕拂ヲ爲スコト但シ年金及公傷一時

- 五ノ三 所屬員ノ共濟組合加入ニ關スル處分ヲ爲スコト
 - 五ノ四 所屬共濟組合員ニ對スル政府給與金ノ決定及支出ヲ爲スコト
- 鐵道局事務所長、工場長及出張所長委任事項

(大正五年三月達第一一五四號)
(改正大正十一年十二月達第九八四號)

第一條 鐵道局事務所長、工場長及出張所長ハ左ノ事項ヲ專決施行スルコトヲ得

六 鐵道部内職員療養規則ニ依リ全治後一回拂ニシテ二十圓以内ノ療養料ノ給與ヲ爲スコト

十四 所屬共濟組合員ニ對スル疾病給付、葬祭金及災厄給付ノ決定及仕拂ヲ爲スコト

追 加

○現業従事員負傷、疾病又ハ死亡ノ際診斷又ハ檢案ニ關スル件 (大正五年十一月達第一二七號)
現業従事員就業中又ハ勤務所ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

○現業員負傷又ハ罹病ノ場合所理方ノ件 (大正五年十一月達第一二七號)
今般達第一、二、七號ヲ以テ現業従事員ノ負傷疾病、死亡ノ場合ニ於ケル處理方ヲ規定セラレタルハ一般衛生ニ基クモノニシテ公務ニ起因セサル場合ニモ適用アリトス而シテ其ノ程度ハ現場ニ於ケル應急手當ニ限ルモノト心得ヘシ

○現業員負傷罹病又ハ死亡ノ場合處理方ニ關スル達適用方ノ件 (大正六年二月達第一、二、七號)
客年十一月達第一、二、七號現業員負傷罹病又ハ死亡ノ場合處理ニ關スル達ノ適用方ニ就テハ左ノ通心得ヘシ

- 一 該達ノ現業従事員ノ範圍ハ本院ニ在リテハ官房文書課印刷所及經理局被服工場所屬員官房研究所現場従事員守衛自働車運轉手竝本院所屬ノ傭人各局所ニ在リテハ其ノ所屬員全部トス
- 二 同勤務所トハ院廳舍及構内等ハ勿論其ノ他線路上ヲ包含スルモノトス

○公務上ノ傷病者報告方ノ件

大正七年三月
達第二八〇號
改正十二年二月
達第三一號

公務上ノ傷病者報告方左ノ通定ム

第一條 官房各課所長及各局所長ハ其ノ所屬職員ニシテ職務執行上傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者アルトキハ別表第一號ニ依リ毎月五日迄ニ其ノ前月分ヲ大臣ニ報告スヘシ

第二條 各鐵道局長、各建設、改良及電氣事務所長ハ大正三年勅令第百五號鐵道部内職員療養ニ關スル件、明治二十五年勅令第八十號官吏療治料給與方ノ件、明治十二年大政官達第四號各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規及大正七年勅令第三百八十二號傭人扶助令ニ依ル療養料又ハ療治料ヲ支給シタル者ニ付別表第二號ニ依リ職員療養票ヲ作成シ毎月二十日迄ニ其ノ前月分ヲ取纏メ大臣ニ報告スヘシ

附 則

本達ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年六月達第五三六號職務執行上ノ傷病又ハ疾病者報告方ノ件ハ之ヲ廢止ス

別表第一號

大正 年 月分傷病人員調

所屬	事項	前月ヨリ療養 繼續ノ人員		全治人員	死亡人員	翌月へ療養 繼續ノ人員		記 事
		負傷	罹病			計	計	
	本月中新患者							
	計							

記 事

- 一 負傷者及罹病者數ハ大正三年勅令第百五號鐵道部内職員ノ療養ニ關スル件ノ適用ヲ受クヘキ職員ト其ノ以外ノ職員トニ區分スヘシ
- 二 鐵道局所屬ノ職員ハ之ヲ驛員、機關庫員、保線區員、工場員、船員及其ノ他ニ區分スヘシ
- 三 鐵道病院又ハ治療所ニ於テ療養ヲ受クル者モ本調ニ計上スヘシ
- 四 即死又ハ療養ヲ受ケスシテ死亡シタル者ハ死亡人員欄ニ、療養中退職シタル者ハ全治人員欄ニ何レモ朱書（朱書ノ員數ハ墨書中ニ含マス）スヘシ
- 五 再發患者ニ付テハ新患者ト區分シ其ノ旨ヲ明カニスヘシ
- 六 全治後公傷救濟金、恩給、扶助料又ハ給助料ヲ受クヘキ人員及療養二箇月以上ニ涉リ尙ホ翌月へ繼續ノ人員アルトキハ其ノ旨ヲ記事欄ニ記載スヘシ

別表第二號

職員療養票

(四寸八分) 大正 年度 月分

局所	勤務所 職名	氏名	組合員 組合員外 組合員	年齢	年 月 日生
死傷原因	業務別	傷病名及症狀			
負傷發病	年 月 日 午 時 分	未打切	年 月 日(第 回)		
全治	年 月 日	死亡退職	年 月 日		
決裁	年 月 日	醫師名	鐵道醫 非鐵道醫		
療 養 料					
種別	員 數	金 額	種別	員 數	金 額
入院	單位	圓	義足	單位	圓
通療			溫泉療養		
應急			船車賃 人足賃		
附添看料 護料					
義齒					
義手			合計		
備考					

(用紙模造紙百五十斤)

記 事

- 一 本票ハ一箇月分毎ニ取纏メ其ノ枚數及金額ヲ記載シタル表紙ヲ添附スヘシ
- 二 大正三年勅令第百五號鐵道部內職員療養ニ關スル件ノ適用ヲ受ケサル職員ニ付テハ其ノ適用法令ヲ備考欄ニ記載スヘシ
- 三 鐵道病院又ハ治療所ニ於テ療養ヲ受クル者ニ付テハ療養料ノ記入ヲ省略スルコトヲ得
- 四 職名欄ニハ職工ニ付テハ職場名ヲモ記入スヘシ
- 五 年齢欄ニハ生年月ノミヲ記入スヘシ但シ調査材料ヲ缺クトキハ何歳ト記載スルヲ妨ケス
- 六 作業別欄ニハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於ケル作業ノ種類例ヘハ連結中、入換中、運轉中、列車取扱中等ヲ簡明ニ記入スヘシ
- 七 死傷、罹病原因欄ニハ其ノ原因タル事實ヲ詳記スヘシ
- 八 鐵道病院又ハ治療所ニ於テ療養ヲ受ケタル場合ニ於テハ全治又ハ終療ニ至リタル者ニ付本票ヲ作製スヘシ但シ療養次年度ニ涉ル者ニ付テハ毎年三月分ニ於テ本票ヲ作製スヘシ
- 九 鐵道病院又ハ治療所ニ於テ療養ヲ受ケタル者ニ付テハ醫師名欄ニ病院又ハ治療所

名ヲ記入スヘシ

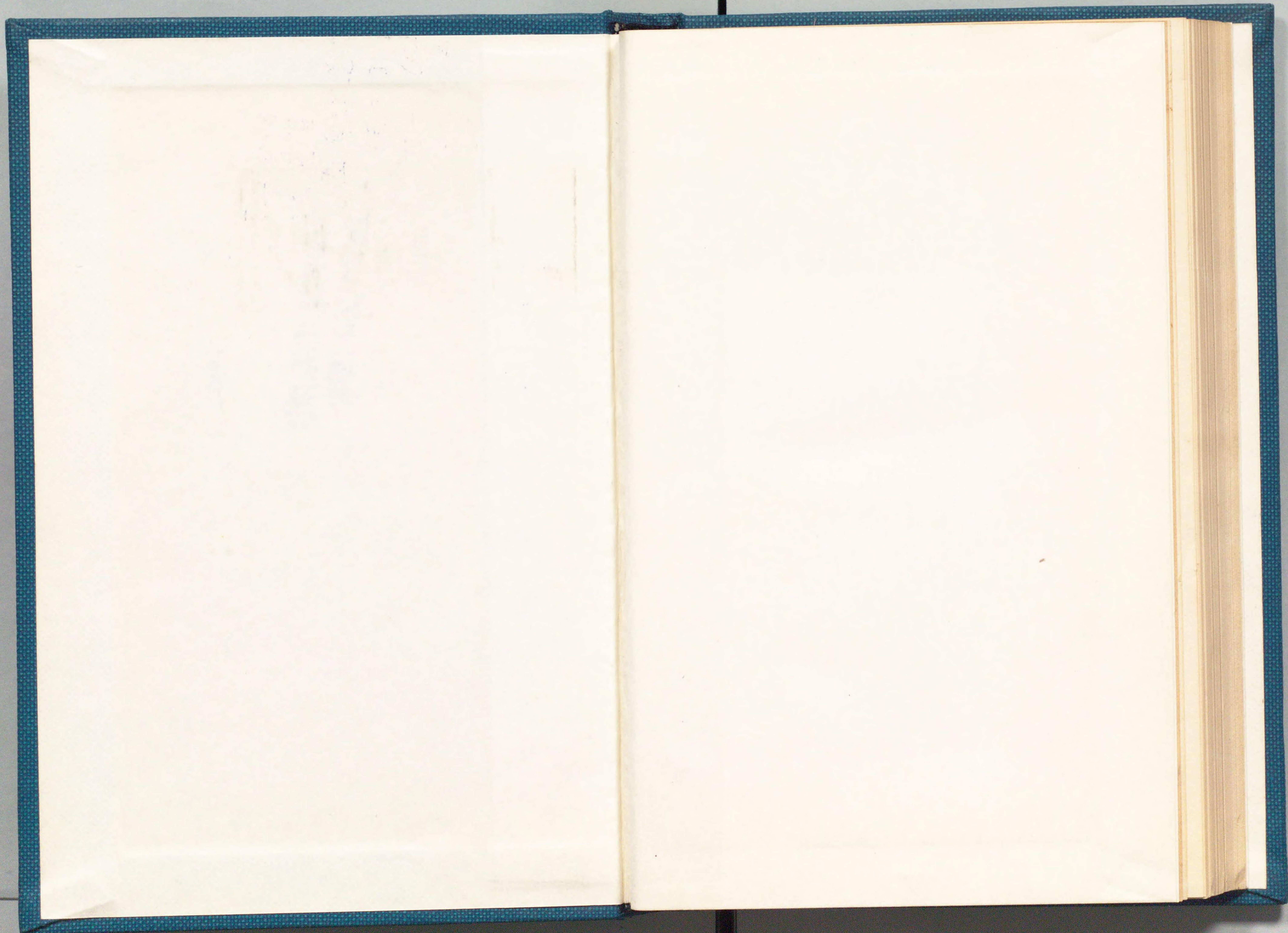
十 打切支給第二回以降ニ係ルモノニ付テハ用紙上邊赤著色ノモノヲ用ヒ記載事項變化ナキ場合ニ限り職名、組合員又ハ組合員外、年齢及死傷罹病原因欄ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

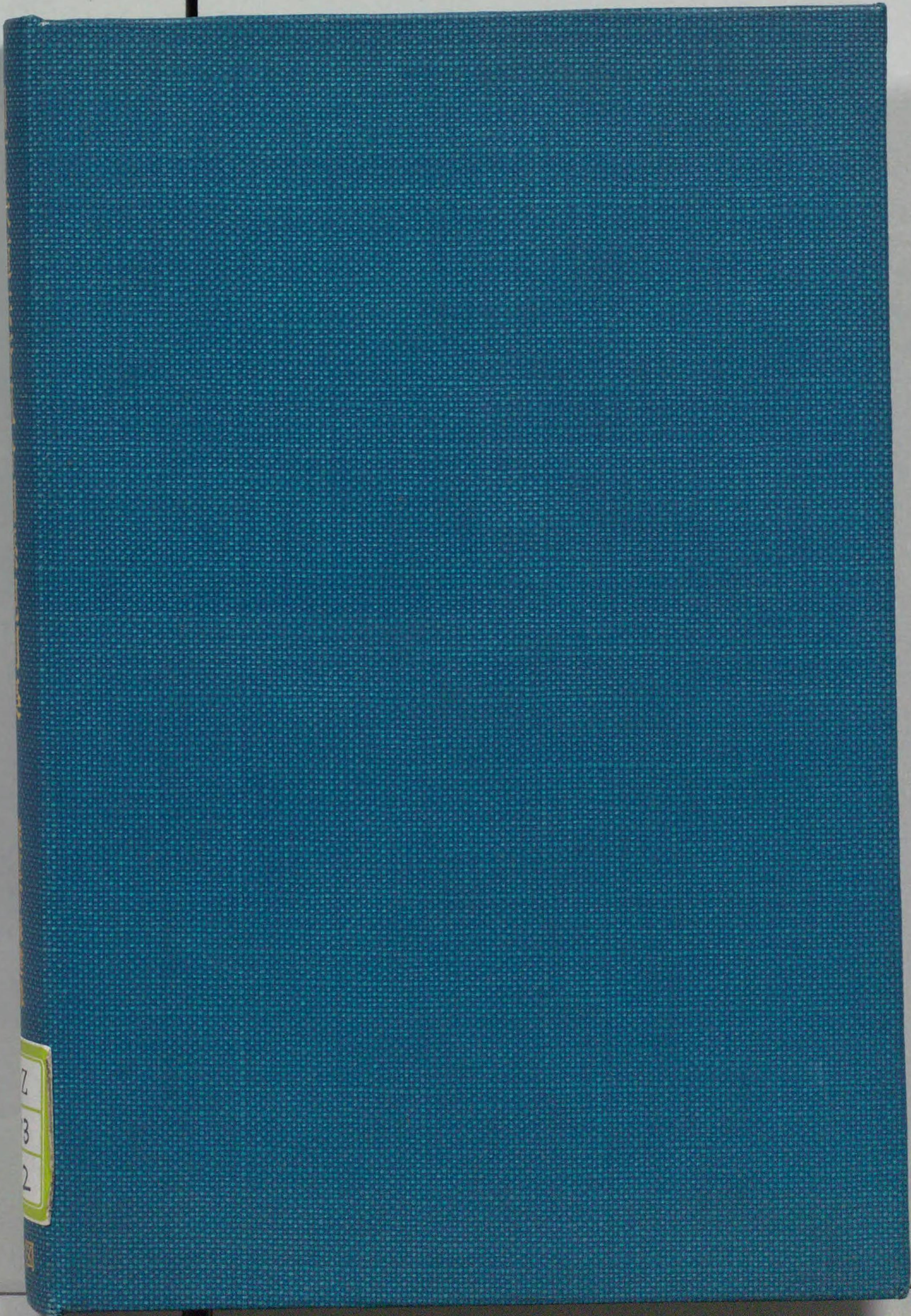
十一 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ

六 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ
七 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ
八 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ
九 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ
十 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ
十一 再發患者ニ付テハ新ニ本票ヲ作製スヘシ

シエ A 39







7
3
2